

## 青葉工業会報に掲載されました。

[ Topics ] 2014年01月29日

青葉工業会報（2013.12 No57）にリーディング大学院に関する記事が掲載されましたので、紹介いたします。ぜひご一読ください。

**文部科学省博士課程リーディングプログラム  
「東北大学グローバル安全学  
トップリーダー育成プログラム」**

プログラムコーディネーター  
機械システム工学博士 教授 湯上 浩 謹啓

我が国の将来を担うリーダーを育成することを目的として、文部科学省・博士課程教育リーディングプログラムが実施されています。工学研究科が参加しております「グローバル安全学」トップリーダー育成プログラム（平成24年度～平成26年度）が平成24年度に採択され、安全安心分野のグローバルリーダーを育成する取り組みが開始されています。このプログラムの特徴は、初級の人材育成段階のもとで研究科や専攻の特を越えて、博士進級後の5年間一貫教育にもつづき「博士学位プログラム」を奨励することです。以下に概要をご紹介します。

東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災は、地球的・社会的にグローバルに波及した災害であり、その影響は長期にわたる持続的リスクでの復興が課題であり、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていません。

さらには原子力発電所の再稼働を進めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっています。本プログラムでは、専攻の特を越えて安全・防災系を含む学生集団で教育を行い、東日本大震災で代表されるグローバル中東エネから人命、社会、産業を守ることに貢献できるグローバル安全学リーダーをアカデミアのみならず、世界的企業や国際機関などの多様な分野に輩出することを目指しています。

東日本大震災が明らかにしたことは、防災目的手段の社会合意形成の必要性、リーダー層の危機管理能力の欠如です。本プログラムが育成を目指す人材は、大工学の基礎、応用性、協働性、そして明確なビジョンをもち、学術に究極した確かな知識をもとに自ら考え実行できる能力を有すると共に、教員や世界が首肯する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギー問題などの多様な事象に対応できるグローバル安全学分野のトップリーダー人材です。

本プログラムの特徴は、防災科学国際研究所、工学研究科、海洋研究科、環境科学研究科、工学研究科等の6研究科が専攻が異なることです。学生は、まず専攻科目として人文社会科学科目（哲学・社会学・歴史学など）を履修します。そのうえで本学に新設された災害科学国際研究所が目的とする「実践的防災学」に基づく学際的かつ実証的な教育研究を行うと共に、震災からの復興現場での活動中、世界的研究活動を通じて人材を育成することです。さらに地域社会共通の課題である気候変動や、原子力事故に代表される巨大システム事故への対応、世界的なエネルギー問題等の解決に貢献できる人材の育成に取組を推進しています。

リーディングプログラムに選定された学生は、リーディングプログラム院生として、専攻専攻は加えてグローバル安全学教育研究センターに所属して、専攻専攻学生との交流の中で切磋琢磨することによって、リーダーとして成長します。本センターには「部局や専攻を跨いで「安全安心を知る」「安全安心を守る」「安全安心に生きる」という3つのユニットで行われた教育が相互に連携・連携・制度のもとで、学生が主体的に形成するユニット横断的な科学研究チームの推進にあたります。

本プログラムでは1年次（修士1年生）に30名の学生を募集しております。平成25年度では、学年進行を促すために修士1、2年次学生を募集し、工学研究科、理学研究科、工学研究科、環境科学研究所に所属する学生から32名の合格者を抽出しました。本プログラムでは、産学連携の一環として「グローバルビジョン奨励」を実施しております。これは、プログラムに参加する意思のある学生に対して、研究奨励金の優遇性、自分自身の将来ビジョンの見つけ直し、さらには自分の考えを相手に伝える経験です。この経験に加えて英語研修も実施したうえで、表明審査および面接審査により、産学が有するリーダーとしての資質がある学生をグローバル院生として選定しました。

合格した学生に対しては、25年4月1日に東北大学リーディング大学院新設機構「機構長（教育副学長）」主催の認定式が開催され、プログラムの教育が開始されました。本プログラムは、進学選抜をもとに学生の教育をすることを基本とされています。このことから、青葉工業会報各位に本プログラムの教育にご協力いただく機会が多いかと思います。ご指導ご関係よろしくお願いたします。

青葉工業会報

# 文部科学省博士課程リーディングプログラム 「東北大学グローバル安全学 トップリーダー育成プログラム」

プログラムコーディネーター  
機械システムデザイン工学専攻 教授 湯上 浩雄 (教員)

我が国の将来を担うリーダーを育成することを目的として、文部科学省・博士課程教育リーディングプログラムが実施されています。工学研究科が参画しております「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム（平成24年度～平成30年度）」が平成24年度に採択され、安全安心分野のグローバルリーダーを育成する取り組みが開始されています。このプログラムの特徴は、明確な人材育成像のもとで研究科や専攻の枠を超えて、博士前期後期の5年間一貫教育にもとづく「博士学位プログラム」を提供することです。以下に概要をご紹介します。

東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災は、地理的・社会的にグローバルに波及した災害であり、その影響は長期にわたる時間スケールでの復興が必要であり、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていません。

さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっています。本プログラムでは、部局の枠を超えて文系・理系を含む学生集団で教育を行い、東日本大震災に代表されるグローバルデザスターから人命・社会・産業を守ることに貢献できるグローバル安全学リーダーをアカデミアのみならず、世界的企業や国際機関などの多様な分野に輩出することを目指しています。

東日本大震災が明らかにしたことは、防災目的手段の社会合意形成の欠如や、リーダー層の危機管理能力の欠如です。本プログラムが育成を目指す人材像は、人文学の素養、国際性、倫理観、そして明確なビジョンをもち、学術に立脚した確かな知識をもとに自ら考え実行できる能力を有すると共に、我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギー問題などの多様な事象に対応できるグローバル安全学分野のトップリーダー人材です。

本プログラムの特徴は、災害科学国際研究所、工学研究科、理学研究科、環境科学研究科、文学研究科等の6研究科18専攻が参画することです。学生は、まず基幹科目として人文社会科学科目（哲学・社会学・歴史学など）を履修します。そのうえで本学に新設された災害科学国

際研究所が目指す「実践的防災学」に基づく学際的かつ先端的な教育研究を行うと共に、震災からの復興現場での活動や、世界的研究活動を通じて人材を育成することです。さらに人類社会共通の課題である気候変動や、原子力事故に代表される巨大システム事故への対応、世界的なエネルギー問題等の解決に貢献できる人材の育成に取組を展開していきます。

リーディングプログラムに選抜された学生は、リーディングプログラム院生として、各所属専攻に加えてグローバル安全学教育研究センターに所属して、異分野学生との交流の中で切磋琢磨することで、リーダーとして成長します。本センターには、部局や専攻を跨いで「安全安心を知る」「安全安心を創る」「安全安心に生きる」という3ユニットに分かれた教員が属し複数メンター制度のもとで、学生が主体的に形成するユニット横断的な修学研究チームの指導にあたります。

本プログラムでは1年次（修士1年生）に30名の学生を想定しております。平成25年度では、学年進行を早めるために修士1、2年次学生を募集し、工学研究科、理学研究科、文学研究科、環境科学研究科に所属する学生から32名の合格者を出しました。本プログラムでは、選抜の一環として「グローバルビジョン研修」を実施しております。これは、プログラムに参加する意思のある学生に対して、異文化理解の重要性、自分自身の将来ビジョンの見つめ直し、さらには自分の考えを相手に伝える研修です。この研修に加えて英語研修を実施したうえで、書類審査および面接審査により、意欲が有りリーダーとしての資質がある学生をプログラム院生として選抜しました。

合格した学生に対しては、25年4月1日に東北大学リーディング大学院推進機構（機構長：教育担当理事）主催の認定式が開催され、プログラムの教育が開始されました。本プログラムは、産学連携をもとに学生の教育をすることを求められています。このことから、青葉工業会各位に本プログラムの教育にご協力いただく機会が多いかと思えます。ご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。

